第 498 回情報化研究会報告

この日は参加申込が 13 名でした。北は山形県，南は佐賀県からの参加があり正にオンライン講演の印象でした。講演は以下のように進められました。

1. Chat GPT とは何者か/使われ方
2. AI とは何か/AI の発展
3. Chat GPT に使われる技術は何か
4. Chat GPT にリスクはあるか
5. 日本政府の対応
6. EU の動向/AI 責任指令等
7. 技術士の活動分野はどこか
8. まとめ

Chat GPT は Open AI 社が開発した人工知能(AI)を使ったチャットサービスであり，類似のものを Microsoft が提供する bing，Google が提供する Bart がある。

AI の使われ方を 100 社にアンケート調査した結果では社内業務に利用中が 37 社で利用を検討中が 43 社でした。取引先に接する事業・サービスに利用中が 20 社で利用を検討中が 22 社とのことでした。

AI の発展歴史は，1960 年代の第 1 次ブーム，間隔を開けて第 2 次ブーム，第 3 次ブーム，第 4 次ブームとなっていて，第 3 次ブームでは「アルファ碁」がプロ棋士に勝っている。現在は第 4 次ブームの上昇過程にある。

技術士としての活躍分野は，①効果的な使い方の客先支援，②プロンプトエンジニアリングの提供，③質問/回答の技術的評価/アドバイス，④技術士業務の効率化，⑤客先の戦略策定の手助け，⑥ブレインストーミングのアイデア出し，がある。

まとめとして以下のように挙げられた。

○Chat GPT は突然に登場したものではなく，それ以前の技術を受け継ぎ発展させたもの

○リスクもあるが，うまく使えばメリットもある

○技術や環境の変化をチャンスとして，使いこなし，コンサルタント業務の幅を広げるために役立つのではないか

質疑応答は何人もの視聴者から幾つもの質問が出され，30 分ほど続き，予定時間を越えて，講師に感謝して終了とした。